

糖尿病教室

11月、「秋の糖尿病教室」が松波総合病院(南館)MGHホールにて開催されました。

11/1 「糖尿病とは」 松波総合病院 第二消火器内科部長 伊藤 康文先生

11/4 水 「食欲の秋! 血糖値を良好に保つ食事療法」 管理栄養士 松波 彩子さん



11/11 「糖尿病の合併症」 松波総合病院 副院長 林 慎先生

11/11 水 「糖尿病性網膜症について」 松波総合病院 眼科第一部長 松波 智恵子先生

「普段の運動にひと工夫!! ~理学療法士が伝えたい筋力トレーニング法~」 理学療法士 森島 拓也さん



11/25 水 「糖尿病の診断と治療」 松波総合病院 副院長 林 慎先生

11/25 水 「これでばっちり!! ~糖尿病のお薬のお話~」 薬剤師 杉山 実希さん

糖尿病と言う病名は、多くの方がご存知だと思います。日本人の食生活が豊かになり糖尿病患者の方も年々増加し糖尿病予備群を含めると1500万人と言われています。糖尿病により神経の障害や突然死が見えなくなりなど、症状が表れてから糖尿病と知る事もあります。

ます。症状が表れてからでは無く、糖尿病の予防や合併症を防ぐために「糖尿病について正しい知識を学ぶことが大切です。」当院では、糖尿病教室を定期的に開催しており、今後多くの参加をお待ちしております。

在宅お役立ちセミナー

11月28日午後、松波総合病院・入退院センターにて「在宅お役立ちセミナーVol.5」が開催されました。

今回のテーマは、「呼吸のフィジカルアセスメントのポイント」で集中ケア認定看護師の桑原さんが講師を務めました。講習では、肺の構造・打診・聴診・視診などの大切なポイントの説明をされました。日常業務で行っているSPO2の測定値の判断や肺雜音の聴取部位など、根拠に基づいた手技、重要な観察ポイントなどには、特に参加者の方々が“なるほど”や“あ、そーか”と納得されていました。参加者は、個々の施設を持ち帰って情報の共有を行い、実践の場に取り組もうとされていました。



講演会のお知らせ

第103回 すこやかネットワーク

【日時】2016年1月20日(水) 19:00~

【場所】松波総合病院 南館 一階 MGHホール

【演題】「関節リウマチの診断と治療」

【講師】松波総合病院 リウマチセンター長

佐藤 正夫 医師



2016年
新年の
ごあいさつ

2016年 年頭にあたり

新年、明けましておめでとうございます。

私たち、日本人は、新年を迎えることを大昔から大切にし、人生の節目として捉えて今日に至っています。しかしキリスト教国では、クリスマスの前後の日は宗教的な意味で大切にされますが、正月三が日を祝う概念はありません。それぞれの民族が有する、歴史的、社会的背景で日時の捉え方も異なりますが、日本人は新年を迎えるに当たり、旧年を振り返り、反省して、今年こそはより良い年になるようにと願って、新年を迎えるわけです。

さて、私たち医療人にとって、新しい年は如何なる年になるでしょうか?私たちを取り巻く医療環境はどうなるでしょうか?近年急速に進められている医療改革は、いよいよ実効性のあるものになろうとしています。自治体病院改革が始まり、自治体病院の会計基準が医療法人と比較が可能なものに変更させられたため、多くの自治体病院では赤字経営が明らかになりました。地域の病床削減を目的とする地域医療構想会議も始まり、医療法人制度改革がなされ、地域医療連携推進法の導入も決定されました。これらの政策はすべて医療費削減につながるものであります。また、来年度の診療報酬はマイナス改訂が発表されました。ここ数年のうちに、医療を取り巻く経済的環境の大変革が行われようとしています。35万床が削減され、医療機関の吸収・合併は国のいたるところで発生すると思われます。

まさに、医療機関にとっては暗黒時代に突入するわけですが、今後の経済見通し、少子高齢化社会を考えれば、やむをえない事でしょう。私たちは以前からそのようなことを予測して、対策を講じてきました。その一つがnorth wing の建築とsouth wing の改築です。これらが首尾よく完成したことにより、急性期病院+クリニック+慢性期病床+老健が渡り廊下で結ばれ、大きな医療施設複合体(mega medical complex)が完成したわけです。私たちのこの施設群の最大の特徴は、健診・外来から慢性期の療養・在宅に至るまで、ほとんどすべての医療・介護のニーズに応えることが出来る点です。こういった取り組みを先んじておこなってきたことが、今後実を結んでく

ると思います。地域医療構想+地域医療連携推進法人の体制においても、私たちは主導的立場で行動することが出来るでしょう。翻ってこれらの状況を考えると、私たちはこの地域において、より大きな責任を背負わなければならぬことになるわけです。

新年は決して安穏とした年になることはないでしょう。であるからこそ、職員の皆様に置かれましては、社会の要求にこたえられるように切磋琢磨して、私たちの責任を果たして、より良い一年にしましょう。関係者に置かれましては、本年もよろしくご指導くださいますよう、お願い申し上げます。





新年にあたって

あけましておめでとうございます。

当院は、昨年春から501床に増床し、ICU8床、HCU20床、一般(7:1看護)294床、地域包括ケア病棟60床、回復期リハビリテーション病棟60床、障害者病棟59床の病棟編成とし、いわゆるスーパーケアミックスの診療体制を築きました。これにより患者さんの病気の状況に応じた効率よい適切な医療を提供できる病棟編成に生まれ変わりました。

今後の日本の人口構成の変化はそのままこの地域の人口構成の変化に一致し、若年人口の減少と高齢人口の増加がみられます。一方、患者さんの数は、当院の属する医療圏でもまた当院へ車で30分以内の患者さんの数も2027-8年までぐらには増加しますが、それでも増加するのは、65歳以上の方々であり、それより若い方は減少していきます。高齢の患者さんは若い患者さんと違って疾患に特徴があります。もちろん、高齢者は救急搬送やがんを始めとする大きな手術も多く、その一方、疾患そのものが治癒しがたく、急性疾患の積極的な治療後、例えば点滴だけが必要だったり、しばらくは退院に向けてのリハビリテーションが必要だったりすることが多いといった状況が多くおこります。当院の手術室での手術件数は毎年ずっと増加し続けており、急性期医療も益々盛んなものになっていますが、このような高齢患者さんの多岐にわたる疾患の状況に応じた適切な医療を提供するために、当院は全病棟を高度急性期から一般急性期、回復期、更には慢性期における医療までの4つのタイプの病棟に分けたわけです。これにより今後増加する高齢患者さんにもより適切に医療を提供できると信じています。こ

れからの医療では地域全体で疾患の状況に応じた対応していく必要があります。当院での医療を終えてからは介護施設や自宅をはじめとするいわゆる在宅医療が必要になってくる方々も増加してきます。在宅医療を受けておられる方が急に病状が悪化した時には速やかに入院治療する体制も当院では確立しております。

今年は2年に1回の診療報酬の改定の年になります。現在の我が国の財政状況を鑑みても医療提供側にとっては厳しい改定になるのは必須ですが、当院は常に最良の医療を提供できるよう最大限の努力をして、在宅医療を含めたこの地域の方々の医療を支えていく所存であります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



社会医療法人蘇西厚生会
松波総合病院
病院長
山北 宜由

北館完成までの歩みとこれまでの歴史

- 1902年—松波病院開設
1911年—加納町病院として再開設
1933年—松波外科医院開設
1947年—松波病院(20床)開設
1957年—医療法人蘇西厚生会設立
1979年—病床数増床(250床)
1988年—松波総合病院の新築移転・開設(437床)
松波総合病院老人保健施設(146床)開設(県内初の老健施設)
1995年—体外受精成功(県内初)
1997年—生体部分肝移植成功(国内の民間病院初)
2002年—まつなみ健康増進クリニック開設
血友病患者への生体部分肝移植手術(世界初)
2003年—回復期リハビリテーション病棟開設(55床)
2005年—救急救命集中センター開設
2007年—特定医療法人承認
集中治療室(ICU)開設(4床)
2008年—社会医療法人承認(県内初・国内3番目)
重症疾患患者集中治療室(CCU)開設
2011年—岐阜DMAT指定病院に指定
災害拠点病院(地域災害医療センター)に指定
2012年—地域医療支援病院に指定
2013年—まつなみリサーチパーク設立
2014年—松波総合病院・北館(NORTH WING)完成
2015年—松波総合病院・南館(SOUTH WING)改修(北館・南館合計501床)
北館駐車場増築工事竣工



メガメディカルコンプレックス(MMC)とは

患者さまに必要な医療は、患者さまの時々の病状の経過に応じて異なります。従来の医療はそれらの医療機関がバラバラに存在して、必ずしも良好な連携がとれないままに行われてきました。私たちは、予防医学・通常の外来はクリニック(県内最多の診療科)、急性期の医療は病床数501床の総合病院(国内の病院の分類で500床以上が最大分類)で担当し、その後の医療は病床数146床の老健(一施設としては県内最大級)で担当することにより、切れ目のない(患者さまにご迷惑をおかけしない)システムを作り上げました。個々の規模は県内最大(メガ)です。これらの施設が複合体(コンプレックス)を形成することにより、理想的な医療施設(メガメディカルコンプレックス)を構築しています。

外来診療のご案内(初診の方は紹介状をご持参ください)

【NORTH WING(北館)】

- 眼科 ■産婦人科 ■耳鼻咽喉科 ■泌尿器科
- 放射線科 ■健診科 ■脳神経外科 ■整形外科 ■神経内科
- 紹介状をお持ちの方 ■内科 ■循環器内科 ■小児科

【SOUTH WING(南館)】

- ペインクリニック ■リハビリテーション科

【まつなみ健康増進クリニック】

- 外科 ■心臓血管外科 ■皮膚科 ■大腸肛門科 ■呼吸器内科
- 呼吸器外科 ■形成外科 ■腎臓内科 ■血液内科 ■リウマチ科

- 紹介状をお持ちでない方 ■内科 ■循環器内科 ■小児科